

「合志ブランド」売り込め

焼酎、カステラ…16点認定

市推進協

合志市の特産品を全国に売り込もうと市が設置した「合志市特産品地域ブランド推進協議会」（会長・荒木義行市長）は20

日、「合志ブランド」として焼酎やカステラなど7事業者の16点を初めて認定した。商品には認証シールが張られ協議会が

全国への売り出しを支援する。同市野々島の温泉施設「ユーパレス弁天」物産館では、特設コーナーで1カ月間展示販売する。

協議会は①原料が市内産か、市内で生産の味や外観が優れている③市に

ちなんだ伝承や物語性があるなどを基準にし、事業者が申請した農産品や加工品など21点から選考した。

今回選ばれたのは、市内産の紫芋を使い、市内にある城跡の名前を付けた芋焼酎「竹迫城・ムラサキマサリ」や、竹林に囲まれた農場で育った鶏の卵を使用した「かぐや姫たまごのかすてら」など。

同日、市役所であった



「合志ブランド」に認定された商品と生産者

認証書授与式で、カス（長）は「合志ブランド」などが選ばれた「緒」が広く認知される方エッグファーム」（同）よう努力を続けたい」と市合生）の緒方克也社話した。